

IV 今後の展開方向

県民を対象としたアンケート調査（平成 26 年度第 2 回県民モニター調査）では、街なかの緑化を進めていくべきところはどこかという質問に対し、「街路樹など沿道」、「公園」、「学校、幼稚園、保育園などの校庭・園庭」など身近な公共空間の緑化に対する回答割合が高かった。

また「工場、事業所、商業施設」、「家の庭や生垣」、「集合住宅やオフィスビルなどの屋上や壁面」とする回答も 3 割前後を占めており、街なかのさまざまな箇所の緑化に関心があることがうかがえた。

このことから、地域コミュニティの場はもとより、教育・福祉・園芸療法などの場において、県民の参画と協働による緑化活動の更なる推進を図るため、引き続き、県民まちなみ緑化事業による支援を実施していく。また、次に記載の方針にもとづき、制度の改善、拡充を行うことにより、当検証により明らかとなった課題の解消を図っていく。

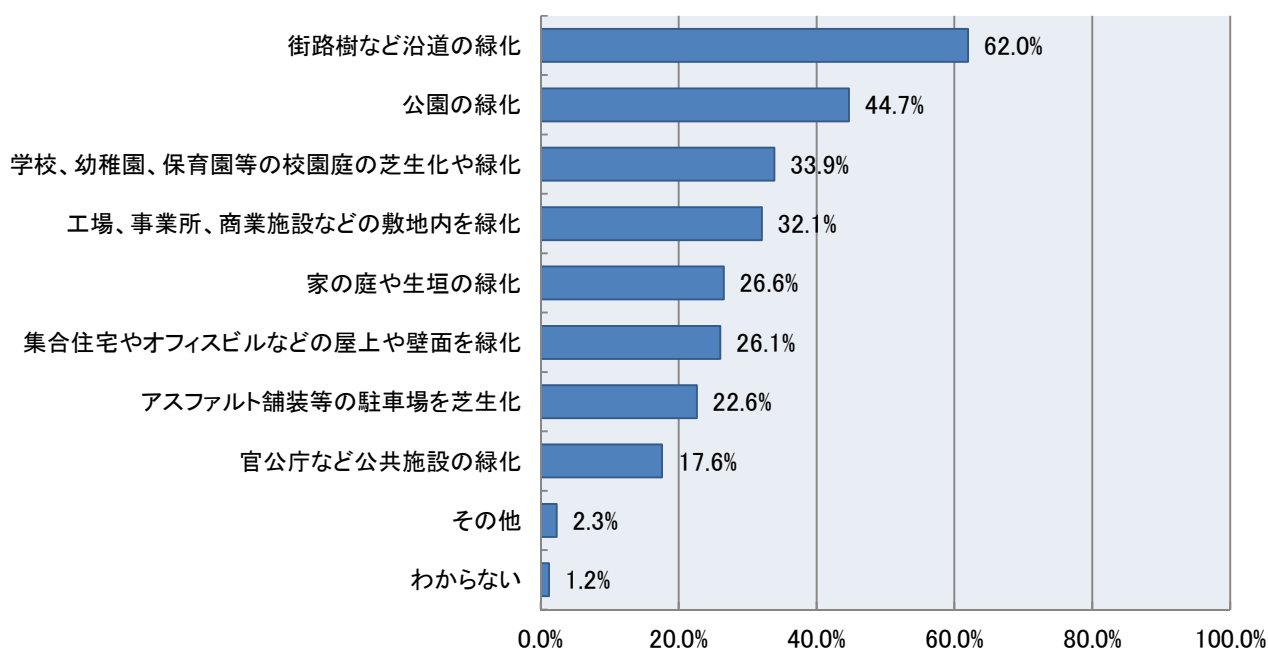


図 街なかの緑化を進めていくべきところ（H26 年度第 2 回県民モニター調査）

1 緑の少ない人口集中地区における緑化を優先的に推進

緑の少ない人口集中地区における一人あたりの緑量を増やすため、緑の少ない地域での緑化活動を優先的に推進し、緑の量の地域的偏在に対応していく。また、安全・安心のまちづくりの観点から、まちなかの防災力の向上に資する空地の緑化を優先的に推進していく。



神戸市中央区での緑化事例

2 校庭の芝生化の推進

人口が減少し、少子化が進展する中、地域創生に資する子育て支援が求められている。子どもが活動的で心身ともに豊かになる教育環境づくりや、学校・園と地域が協働で子どもを育てる環境づくりなど、地域の子育て力向上に資する校庭の芝生化の更なる推進を図っていく。



校庭の芝生化

3 大規模な都心緑化の推進

魅力ある空間形成による集客性の向上、環境への配慮等から、都心に大胆な緑を整備する事例が増加してきている。しかし、市場価値の高い都心においては、民間の自主的な取組のみでは緑化の促進が困難な場合が多いため、当事業により、多くの県民が利用する駅周辺等の公共性が高い歩行者空間を豊かにする大規模な都心緑化を推進していく。



新梅田シティ「新・里山」

4 適切な維持管理の推進

事業実施箇所について、現場の不良や管理の不足などにより生育不良箇所が一定数存在していることが分かった。これらの改善を図るため、植栽計画時等の専門家による講習会の受講の義務化、花緑いっぱい運動推進員の活用等による団体支援、芝生箇所における利用人数に適した規模、芝生種類の基準の作成など、適切な維持管理が行われるよう更なる取組を推進していく。



専門家講習会の開催